

# みんなが えがおですごすために

小学校・3年生

## I プログラムについて

### 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「公平・公正」）

＝【人権感覚育成のための視点】

体験的な活動を通して、相手の気持ちを思いやり、公平・公正に対応することの大切さに気付くとともに、問題が生じた時は、話し合いを大切にして解決しようとする態度を身に付ける。

### 2 関連する教科等について

#### ○学級活動

内容（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
（イ よりより人間関係の形成）

### 3 人権教育上の視点

- （1） お互いの大切さを認め、誰に対しても公平・公正に接しようとする心  
情や態度を身に付けている。（価値・態度）
- （2） 相手の気持ちを想像したり、相手の立場に立って考えたりし、公平・  
公正に接することができる。（技能）

## II アクティビティーについて

### 1 概要

#### ○活動1

「みんながえがおですごすために」（ワークシート）の場面から、自分自身を見つめたり、Bさんの気持ちを考えたりする。

#### ○活動2

解決策について、個人で考えた後、グループで話し合う。

#### ○活動3

本時の学習を振り返り、「みんながえがおですごすために」自分はどのようにしていくのかを考える。

## 2 準備するもの

- 事前アンケート
- 事前アンケートの結果
- ワークシート
- 振り返りシート

## 3 アクティビティの進め方

- 活動1 「場面の状況把握」
  - ① 自分がその場にいたらどのように思うのかを考え、自分自身を見つめる。
  - ② Bさんはどのような気持ちになったのかを考える。
- 活動2 「グループ協議」
  - ① どのような対応をすればよかったのか、個人で考えた後、グループで話し合う。
  - ② それぞれのグループで考えた解決策をクラス全体で発表し、ロールプレイを行う。
- 活動3 「振り返り」
  - ① 本時の学習を振り返り、「みんながえがおですぐすために」は、公平・公正に関わることも大切であることを理解する。

## 4 アクティビティを指導する際のポイント

- 事例にとどまらず、公平・公正の視点について、自分のこととして日常生活の中に生かしていこうとする児童の言動を認めることが大切である。
- 解決策を考えるグループを作る際は、自分の考えを進んで言えるよう人間関係に配慮する。
- 場面の状況把握で「自分がその場にいたらどうしていたか」を考える場面では、発表をする必要がないことを伝え、自分の本心と向き合えるようにする。
- グループで考えた解決策を発表する場面では、教師がBさんの役を演じ、児童が解決策をロールプレイできるようにする。
- 事後指導として、児童それぞれが「みんながえがおですぐすために」考えたことを、実践できたかどうかを振り返る時間を設けるとより効果的である。
- 人間関係がある程度分かってくる2学期以降に実施すると効果的である。

### Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 児童の反応例 (C)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
3分	<p>1 活動への意識付け</p> <p>T この前のアンケートの結果を発表します。気付いたことはありますか。</p> <p>C 全員が、みんなが笑顔で過ごせるとよいと思っているね。</p> <p>C 人によって態度を変えたことがある人は、意外というね。</p> <p>C みんな助けてもらったことがあるんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートの結果を活用し、本時の学習への意欲をもたせる。</li> </ul>
30分	<p>2 場面の状況把握</p> <p>T ある日の教室での出来事です。先生が読むので、こういうことはないかなと考えながら聞いてください。</p> <p>T もし、あなたがこの算数の時間にいたら、どうしていたと思いますか。心の中で答えましょう。</p> <p>T Bさんは、どのような気持ちだったのでしょうか。</p> <p>C もう発表したくないよ。</p> <p>C どうしてわたしの時だけ、笑うの。</p> <p>3 解決策についてのグループ協議</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんながえがおですごすためには、どうすればよいのだろう</p> </div> <p>T Bさんのように悲しい思いをする人がでないために、どうすればよかったのでしょうか。まずは、1人で考え、その後、グループで話し合しましょう。</p> <p>C 仲がよいかそうでないかに関係なく、困っている人がいたら助ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の状況が身近に感じられるように、自分たちの経験を思い出させながら聞かせる。</li> <li>例を示し、自分だったらどうしていたかを考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) ・一緒にくすくす笑う。 ・笑わずにだまっている。 ・笑っている人を注意する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の本心と向き合わせるため、発表をしなくてよいことを伝える。</li> <li>自分だったらどのような気持ちになるのかを考えさせる。</li> </ul>
	<p>T Bさんのように悲しい思いをする人がでないために、どうすればよかったのでしょうか。まずは、1人で考え、その後、グループで話し合しましょう。</p> <p>C 仲がよいかそうでないかに関係なく、困っている人がいたら助ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんながえがおですごすために」という視点で解決策を考えさせる。</li> <li>◎ Aさんが間違えた時には助け、Bさんが間違えた時には笑った行為には、公平・公正に関する問題があることに気付けるように、ねらいに沿った意見を取り上げる。(価値・態度)</li> </ul>

	<p>C 人によって区別しないで、同じように接することが大切。</p> <p>C 相手の気持ちを考えて、誰に対しても優しく接する。</p> <p>T みなさんが考えたことをやってみましょう。先生が、Bさんの役をやります。Bさんが計算を間違えてしまった時、あなたはどうしますか。</p> <p>C 落ち着いてもう一度やれば大丈夫だよと声をかける。</p> <p>C Bさんができるまで、だまって待つ。</p> <p>C Bさんに正しく計算ができるようにアドバイスをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイを通して、誰に対しても、相手の気持ちや立場を考えて行動する、具体的なイメージをもてるようにする。</li> </ul> <p>◎全ての児童が、それぞれ考えたことをロールプレイできるように、教師がBさんの役を演じる。(技能)</p>
12分	<p>4 振り返り</p> <p>T 今日の学習を振り返り、考えたことや分かったことを振り返りカードに書きましょう。また、「みんなが笑顔で過ごすため」に、自分はどうするかめあてを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が考えたことを実生活の態度と結びつけるため、1週間、帰りの会の時に、児童のめあてを達成できたかどうか振り返る時間を設ける。</li> </ul>

#### IV 資料

##### (1) 事前アンケート

**みんなが えがおで すごすために**

名前 ( )

○あなたは、こまったときに、助けてもらったことはありますか。

あります                      ありません

○あなたは、人によってたいどをかえたことがありますか。

(れい) ・□さんには、えんぴつをかしたけれど、◇さんにはかさなかった。  
 ・☆さんと★さんがきまりを守らなかつたとき、☆さんには注意をしたけれど、★さんには何も言わなかつた。

あります                      ありません

○みんなが、えがおですごせると よいと思いますか。

思います                      思いません

## (2) ワークシート

みんなが、えがおで すごすために

名前 ( )

Aさんは、明るくとても元気で、クラスの人気者です。Bさんは、おとなしく、人前で話すことがとても苦手です。

ある日、国語の時間に、みんなの前でAさんがかん字の読み方をまちがえました。CさんやDさん、Eさんたちみんなが、Aさんを助けました。

次の算数の時間に、みんなの前でBさんが計算をまちがえました。Cさんは、声を出してわらいました。DさんやEさんたちも、くすくすわらいました。

Bさんはうつむき、いすにすわり、ないてしまいました。

- みんなが、えがおですごすためには、どうすればよいでしょうか。グループで話し合ったことをメモしましょう。

(3) 振り返りシート

## ふりかえりカード

名前 ( )

- ① 今日の学しゅうをふりかえって、考えたことやわかったことを書きましょう。


- ② あなたは、「みんなが えがおですぐすために」何をがんばりますか。  
がんばることを書きましょう。

--

- ③ あなたが②で書いたことができた日には、○を書きましょう。

月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )

# 〇年〇組オリジナルルールを考えよう

## ～みんなが楽しめるバスケットボール～

小学校・4～6年生

### I プログラムについて

#### 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「公平・公正」）

＝【人権感覚育成のための視点】

ボール運動が得意な児童だけが活躍するのではなく、誰でも活躍の機会を得られるよう、皆で楽しめるオリジナルルールを考え、話し合いによって課題を解決しようとする公平・公正な態度を養う。

#### 2 関連する教科等について

##### ○体育

内容 E ゲーム ア ゴール型ゲーム ※4年生

E ボール運動 ア ゴール型 ※5・6年生

#### 3 人権教育上の視点

- (1) 誰もが活躍できるように個人差を考慮するなど、公平・公正を尊重しようとする心情や態度を身に付けようとする。（価値・態度）
- (2) 集団で決定したルールに則り、一方に偏ることなく、公平に実践することができる。（技能）

### II アクティビティーについて

#### 1 概要

##### ○活動1

全員にはシュートチャンスが回らない状況を、公平・公正の視点から見直し、みんなでバスケットボールのシュートを楽しむためには、どんなルールにしたらよいか個人で考える。

##### ○活動2

一人一人の考えをもとに、グループでブレインストーミングを行ってから、クラス全体で考えを共有し、バスケットボールのオリジナルルールを決める。

##### ○活動3

クラスのオリジナルルールでバスケットボールの試合を行い、全員にシュートチャンスがあったかを振り返る。

## 2 準備するもの

- 個人で考えたルールを記入する用紙（様式は自由。図でも文章でも書けるようなもの）
- ブレインストーミングを行う際用の用紙（A3判程度の用紙）

## 3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「ルールの検討」
  - ① 全員がシュートチャンスを得られるようなルールを、個人で考える。考えられない場合は、ルールの参考例から選ぶ。
- 活動2 「オリジナルルール決定のための話し合い」
  - ① 自分の考えをもとにグループで意見交換をし、オリジナルルールに採用したい考えをまとめる。
  - ② グループごとに考えを発表する。
  - ③ クラス全体で採用するオリジナルルールを決める。
- 活動3 「試合と振り返り」
  - ① シュートチャンスを全員に回せるようなオリジナルルールに従い、試合をする。
  - ② みんなにシュートチャンスが回り、楽しめるオリジナルルールになっていたか、オリジナルルールに従って試合ができたかを振り返り、次時以降に生かす。

## 4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 全員がシュートチャンスを得ることを目指すが、実際にシュートチャンスが回ったかどうかの結果だけでなく、ルールを決める話し合いに一人一人が参加し、公平に決める過程も大切に作る。
- 友達とアイデアを組み合わせたり、加えたり、少し変えたりしながら、たくさんのアイデアが出るような雰囲気を大切にし、チームワークをよくする活動の一つとして取り組むように助言する。
- ブレインストーミングは、様々な意見を出し合う中で、目標を実現させる活動のため、他の人の意見を批判しないよう指導する。
- 例えば、バスケットボールの基本のルールが定着した後や、試合でシュートする児童が固定化した際に実践すると効果的である。



### Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 児童の反応例 (C)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	1 準備運動 2 慣れの運動	・本時は、バスケットボールの基本のルールが定着した後の段階で実施する。
27分	3 前時の振り返り T バスケットボールの試合で一番楽しいのは、どういう時ですか。 C シュートが決まった時。 C チームの友達と協力できた時。 T みんなが楽しくバスケットボールをするためにはどうしたらよいでしょう。 C 全員にシュートチャンスがあるといい。 C バスケットボールが得意でない子も楽しめるルールがあるといい。 4 ルールの検討 T 今日は、全員にシュートチャンスがあるようにする、オリジナルルールを考えます。 T これまでの授業を思い出して、個人で考えましょう。考えがまとまったら、グループで意見を交換し、発表してもらいます。 C 全員がシュートを打てるように、ルールに〇〇を加えたほうが良いと思う。 C 〇〇さんの意見と□□さんの意見を合わせると、誰にでもシュートチャンスがあると思う。 5 オリジナルルールの決定 T グループで考えた、全員にシュートチャンスがあるルールを発表してください。 C 全員にシュートチャンスがあるようにするためには……。	◎全員にシュートチャンスが回り、ゴールが決まる楽しさを共有できるようなルールの必要性を理解するため、現段階でのシュート・ゴール経験者の人数を把握し、個人差があることを確認する。 (価値・態度) ・ルールが思いつかない児童には、これまでのボール運動でのルールを提示するなど、多様な考え方ができるように支援する。 ・全員の意見を認めていく雰囲気大切にしつつ、ルールとして採用したいものを考えさせる。 ・グループやクラス全体で、少し変えたり、加えたりして、よりよいルールができるように意見を自由に言わせていく。

	<p>C ○グループの意見は得意でない人にもシュートチャンスがあると思う。</p> <p>T どの意見も、誰にでもシュートチャンスがあるよう、十分に考えられていますね。</p> <p>6 オリジナルルールを取り入れた試合の実施</p> <p>T みなさんの意見をまとめて決定したオリジナルルールで、実際に試合をしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループからの意見のよさを称賛したり、複数の意見の共通点を示したりして、誰にでも活躍できる場があることを強調する。</li> <li>・オリジナルルールの決定に当たっては、現実的なものを採用するよう児童に促す。</li> </ul> <p>◎クラス全体で、新しいルールを守り、楽しく試合ができるように、ルールを提示しておく。(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルルールに従い、ボールをいろいろな人に回そうとしている児童や、友達のシュートを褒めたり喜んだりしている児童を称賛し、試合の雰囲気を盛り上げる。</li> </ul>
<p>8分</p>	<p>7 本時の振り返り</p> <p>T 新しいルールになって今日初めてシュートできた人、ゴールが決まった人はいますか。ルールに従い、楽しく試合ができましたか。改善点はありますか。</p> <p>8 整理運動・片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初シュート・初ゴールできた児童や、雰囲気を盛り上げた児童、ルールに従って全員のチームメイトがシュートチャンスに恵まれるよう試合ができたことを、全体で称賛する。</li> <li>・実際にやってみて分かることもあるため、新しいルールに適宜改善を加え、よりよい試合となるよう工夫していくことを伝える。</li> </ul>

#### IV 資料

##### (1) ルールの参考例

- ☆試合ごとに、初めてシュートが決まった児童の得点を○点とする。
- ☆試合ごとに全員シュートが決まったら、そのチームにボーナス得点を与える。
- ☆ゴールした児童は、シュートしてない児童がゴールできるように手助けしたり、パスを多く回したりする。

# ケーキをおいしく食べるためには ～公平とは何か考えよう～

中学校・3年生

## I プログラムについて

- 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「公平・公正」）  
 =【人権感覚育成のための視点】  
 身近な事例をもとにして公平・公正について考え、公平・公正な社会を実現するために、誰に対しても分け隔てなく接しようとする態度を育てる。
- 2 関連する教科等について  
 ○社会 公民的分野  
 内容 A 私たちと現代社会 （2）現代社会を捉える枠組み ア（ア）
- 3 人権教育上の視点  
 （1）よりよい社会を実現するために、公平さを尊重しようとする心情や態度を身に付けている。（価値・態度）  
 （2）一方に偏ったものの見方や考え方をせず、一人一人の実情を考えて公平に接することができる。（技能）

## II アクティビティーについて

- 1 概要
  - 活動1  
ワークシートの事例を読んで、ケーキの公平な分け方について考える。
  - 活動2  
ロールプレイを行う。Aさん、Bさん、Cさんになりきり、実際に話し合っ  
てケーキをどのように分けるのかを考える。
  - 活動3  
公平な社会を実現するには、どんなことを心掛けたらよいかについて、個人  
で考えた後、グループで意見交換をする。

## 2 準備するもの

- ワークシート
- 提示資料1
- 提示資料2（グループの数）
- ロールプレイ用の名札

## 3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「ワークシートの事例を読んで考えよう」
  - ① ワークシートの事例を読み、概要を理解する。
  - ② 3人の実情を考慮して、公平に分けるためにはどうすればいいのか、個人でワークシートに記入する。
- 活動2 「ロールプレイ」
  - ① 4～5人のグループをつくり、事例のAさん、Bさん、Cさんになりきって、実際にケーキをどのように分けるのかロールプレイを行う。
  - ② 役割がない人は、ロールプレイの観察者となる。
  - ③ 感想をグループで話し合う。遊び感覚で終わらないようにロールプレイの約束を必ず伝える。
- 活動3 「公平な社会を実現するには」
  - ① ロールプレイをもとに、公平な社会を実現するには、どのようなことを心掛けたらよいか個人で考えた後、グループで意見交換をする。
  - ② グループで意見交換をした後、代表者が発表する。

## 4 アクティビティーを指導する際のポイント

- ケーキを正確に三等分する方法を考えることが目的でなく、公平の視点で、個別の実情を考慮しながら、互いに納得するケーキの分け方を考えさせることが大切である。
- ロールプレイでは、男役と女役があるので、クラスの男女比に合わせて3人の男女比を変えてもよい。
- クラスの実態に応じて、事例の年齢や出したお金を変更したり、新たな設定を追加したりしてもよい。
- 例えば、新学級がスタートして、学級内のコミュニケーションが増えてきた頃に実践すると効果的である。

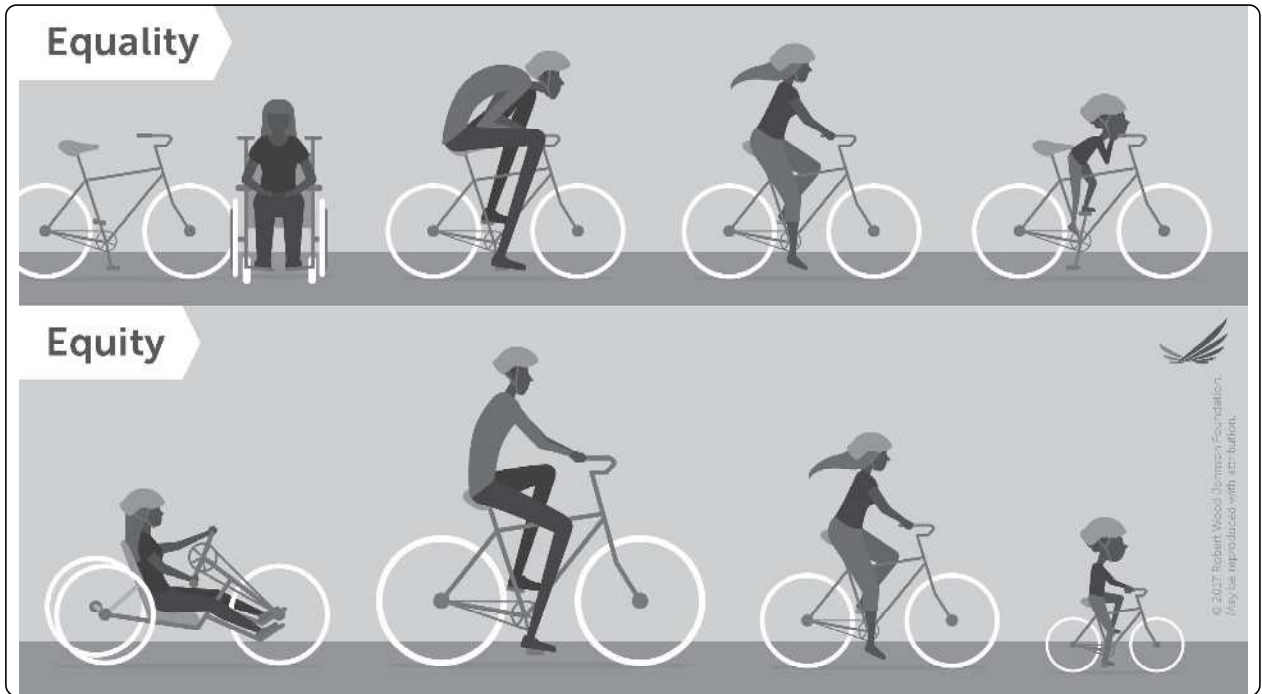
Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	<p>1 課題の把握</p> <p>T みなさんが生活している中で、これは平等ではないと感じる場面がありますか。</p> <p>S 貧富の差があること。 S 電車に女性専用車両があること。 S 大人はお酒が飲めること。</p> <p>T 公平という言葉を知っていますか？平等と何が違うのでしょうか？</p> <p>S 平等は、皆、同じ自転車。 S 公平は、それぞれに合った自転車で、皆が自転車に乗れている。</p>	<p>・身近な事例をもとに本時のテーマに興味をもたせる。</p> <p>・多様な場面が考えられることを伝え、生徒に積極的に発表させる。</p> <p>・提示資料1 (平等と公平) を示して、Equality が平等、Equity が公平を示していることを伝え、二つは何が違うのかを考えさせる。</p>
35分	<p style="text-align: center;">公平とは何か考えよう</p> <p>2 ロールプレイ</p> <p>T まず、ワークシートの事例を読んでください。3人で公平にケーキを分けるためにはどうすればよいか、個人で考えてみましょう。</p> <p>S 簡単には三つに分けられない。</p> <p>T グループで、事例のAさん、Bさん、Cさんの役になりきって、実際にケーキをどのように分けるのかロールプレイを行いましょう。役割がない人は、観察者となって、ロールプレイ後に感想を発表してください。</p> <p>S 話合いで公平に分けるのは難しい。</p> <p>S なかなかよい分け方が見つからない。</p> <p>S とてもよい意見が出たから、その方法で分けた。</p>	<p>・ワークシートを配布する。</p> <p>・自分が公平だと考える方法でケーキを分けさせる。</p> <p>・ロールプレイを行うときは、ロールプレイ用の名札を配布し、必ず役になりきって取り組ませる。</p> <p>・ふざけたり、楽しかったで終わったりしないようにする。</p> <p>・提示資料2 (ケーキのイラスト) を各グループに配布して、イメージさせる。</p> <p>◎ 3人の実情をよく考慮してケーキの分け方を考えられるように、「この後、全員がケーキを食べながら、楽しい時間を過ごすためにはどうしたらよいか」という視点で考えるように声を掛ける。(技能)</p>

	<p>3 公平な社会についての話し合い</p> <p>T 公平な社会を実現するには、どんなことを心掛けたらよいか考え、個人でワークシートに書いてみましょう。</p> <p>S 早い者勝ちで決めていたのは、決め方を考え直した方がいいのではないか。</p> <p>S 一部の人だけが有利にならないように気を付ける。</p> <p>T 今、個人で考えたことについてグループで意見交換をしましょう。</p> <p>S 機械的に見た目を同じにするだけでは公平にならないので、実情をよく考える。</p> <p>S 自己中心的な考え方ではなく、社会をよりよくしていこうとする気持ちが大切。</p>	<p>◎抽象的にならず、具体的に公平な態度を尊重することができるように、日常生活で、公平さが求められる場面を想起して考えるように助言する。(価値・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人一人が実質的に同じ満足を得るために」という視点で考えさせる。</li> <li>・公平ではないと感じた場面があれば、率直に発言させ、その場面について話し合わせる。</li> </ul>
<p>5分</p>	<p>4 振り返り</p> <p>T 今日の学習を振り返って、今後の生活に生かしていきたいことは何か、ワークシートに記入しましょう。</p> <p>S クラスでトラブルがあったときの話し合いに生かしていきたい。</p> <p>S 学校生活では、公平性を求められることが多いから、自己中心的な考え方をしないよう気を付けたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいに沿った感想を書いている生徒に発表させ、学級全体で共有する。</li> <li>・公平なクラスや学校をつくり上げていくのは、自分たちであることを伝え、今後の学校生活に生かしていく態度につながるようまとめる。</li> </ul>

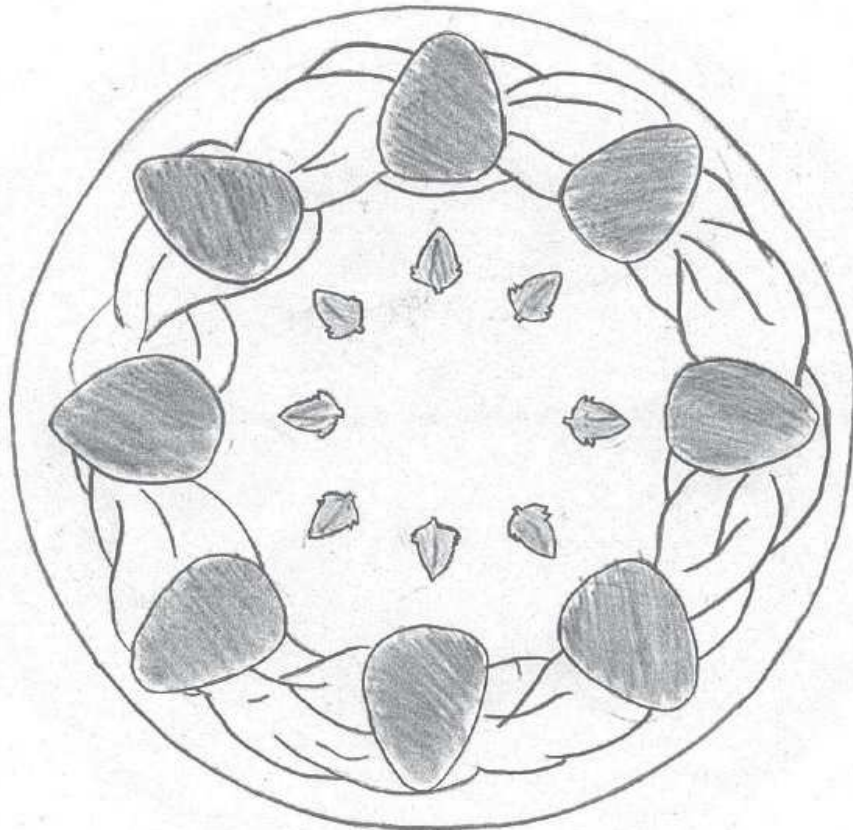
### IV 資料

(1) 提示資料1 (平等と公平) ※Equality:平等、Equity:公平



(出典：Robert Wood Johnson Foundation)

(2) 提示資料2 (ケーキのイラスト)



(3) ワークシート

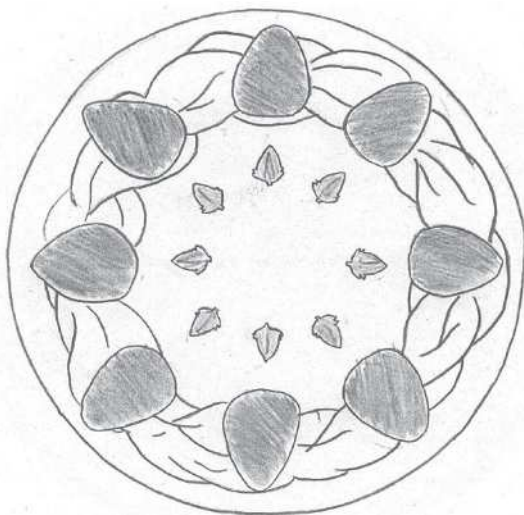
～公平とは何か考えよう～

( )年( )組( )番 氏名( )

3人の子供がいます。  
3人でお金を出し合い、おやつにケーキを食べることにしました。お店でケーキを買い、家に帰ってケーキを分けようとしています。3人の情報は、次のとおりです。

	Aさん	Bさん	Cさん
年齢	16歳	12歳	10歳
性別	男	男	女
お金を出した額	600円	300円	200円
備考	好きな食べ物はクッキーで、お腹がすいている	一週間後は誕生日	好きな食べ物はケーキ

○ケーキを3人で公平に分けてみましょう。



○公平な社会を実現するためには、どうしたらよいでしょう。

○今日の学習を振り返って、今後の生活に生かしていきたいことは何ですか？

---



---



---



# よりよい社会の実現に向けて！

## ～公平・公正の視点から～

高等学校・2年生

### I プログラムについて

- 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「公平・公正」）  
 =【人権感覚育成のための視点】  
 身近にある具体的状況について話し合う活動を通して、一方に偏ることなく、公平・公正な見方や考え方を尊重しようとする。
- 2 関連する教科等について  
 ○総合的な学習（探究）の時間
- 3 人権教育上の視点
  - (1) よりよい社会の実現を目指し、公平・公正を尊重しようとする態度を身に付けている。（価値・態度）
  - (2) 公平・公正の観点から、実情を踏まえて多角的に考えることができる。（技能）

### II アクティビティーについて

- 1 概要
  - 活動1  
ワークシートの資料1について考えたことを、近くの人と意見交換する。
  - 活動2  
ワークシートの資料2をもとに、考えたことを発表する。
  - 活動3  
ワークシートの資料2の課題の解決方法についてグループで協議し、考えた方法を発表する。また一番公平な解決方法を協議する。
  - 活動4  
振り返りを通して、自分の考えを深める。
- 2 準備するもの
  - ワークシート
  - 発表に使う説明シート用の紙、マジック（グループの数）

### 3 アクティビティの進め方

#### ○活動1 「『公平』とは何か？」

- ① ワークシートの間1として、みんなでお金を出して買ったパンについて、じゃんけんで食べる人を決める方法は「公平」であるかどうかを考える。
- ② 考えたことについて、周囲の人と意見交換をする。

#### ○活動2 「課題は解決されたか」

- ① ワークシートの資料2にある図①～③とその解説を読み、図の表している内容を理解する。
- ② ワークシートの間2について、3個の箱を平等に1個ずつ分け合うという方法で、課題は解決したかどうかを考え、発表する。
- ③ 全体での発表を通して、単純に均等に分けることでは課題は解決していないことを理解する。

#### ○活動3 「どうすれば課題は解決できるか」

- ① ワークシートの間3について、グループで課題を解決するための方法を話し合う。
- ② 各グループで考えた解決方法を全体で発表し合い、全体で意見を共有する。
- ③ ワークシートの間4として、各グループの発表した方法から一番公平な解決方法を考えることを通して、公平な見方や考え方を深める。

#### ○活動4 「振り返り」

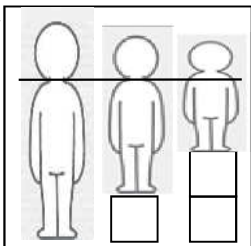
- ① 振り返りを通して、本時の学びや気づきを深める。

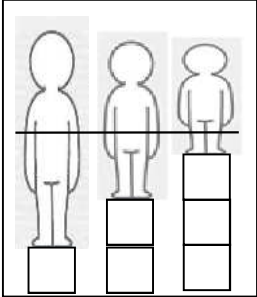
### 4 アクティビティを指導する際のポイント

- 課題の解決方法を決めることが目的ではなく、公平・公正の視点から人権感覚を育成することを目的としていることから、指導者の考えを押し付けたり、参加者全員の考えが同じになるように誘導したりしないよう留意する。
- 活動中、うまく自分の意見がまとめられない生徒に対しては、途中までどう考えたのかを書いたり、発表したりしてもよいことを伝える。
- 同和問題学習や進路学習において、就職や進学における公正採用・選考をテーマとした授業と関連させることで、公平・公正な社会の実現を自分の問題としてとらえさせることが期待できる。
- 例えば、「公共」（公民科）の授業において「公共的な空間における基本原理」について学ぶ授業と関連させると、効果的である。

### Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	<p>1 課題の把握</p> <p>T 資料1の問1について、自分の意見をまとめ、周囲の人と意見交換をしましょう。</p> <p>S 全員が納得しているのであれば、「公平」だと思う。</p> <p>S お金を出しているのに食べることができない人が出るような方法は、「公平」ではないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料、ワークシートを配布する。</li> <li>「公平」であるかどうかだけではなく、そう考える理由も説明させ、人によって様々な考えがあることを実感できるようにする。</li> </ul>
35分	<p>2 課題解決の見通し</p> <p>T 資料2の図①②③とその解説を読んで、問2について自分の意見をまとめ、発表しましょう。</p> <p>S 箱は「平等」に分配しているが、このままだと右端の人は観戦できないので課題は解決していない。</p> <p>S もともと左端の人は観戦できていたのだから、箱は必要ないのではないか。</p> <p>S 左端の人も箱があった方が観戦しやすくなるので、箱は必要だ。</p> <p>3 課題解決の協議</p> <p>T 問3として課題を解決するための方法を二つ以上考え、発表用の説明シートにまとめてみましょう。</p> <p>T グループで考えた方法を、それぞれ発表しましょう。</p> <p>S 3人が平等に観戦できるようにするために、図のような分配方法を考えた。 (Aグループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図の中の3人それぞれの立場から考えてみよう」といった声掛けをすることで、公平・公正を考える際には、一見すると平等な方法に見えても、一人一人の立場の違いによって受け止め方が異なることを理解させる。</li> <li>箱一つずつに乗っただけでは、全員が観戦して満足するには至っていないことを確認する。</li> <li>3～4人のグループをつくらせる。</li> <li>発表用の紙、マジックを配布する。</li> <li>◎公平・公正の観点から、多角的に考えることができるように、方法は一つとは限らないことと、解決方法を文章や絵で自由に表現するように伝える。(技能)</li> <li>一つ方法を考えたグループには、さらに別の方法を考えるように促す。</li> </ul>



	<p>S 真ん中の人2人、左端の人が1人、右端の人が2人の肩の上に乗れば、全員が観戦できる。</p> <p>S 図のように、箱の数を増やせば、右端の人が観戦できるようになるだけでなく、全員がさらに観戦しやすくなる。</p>  <p>(Bグループ)</p> <p>S 例えば扉を金網に変えてしまえば、何時でも誰でも自由に観戦することができる。しかし、実現するには、3人だけの力では不可能だ。</p> <p>(Cグループ)</p> <p>T 問4として各グループの発表の中で、どれが一番、公平な解決方法だと思いますか。</p> <p>S Aグループの方法が最も現実的だと思うが、みんなで協力して箱を集めることができればBグループの方法も実現できそうだ。</p> <p>S 目の前の問題解決ではなく、未来のことを考えるとCグループの方法が一番良いと思う。</p> <p>S もっと多くの人を集めて施設を管理する市に改修を頼めば、Cグループの方法も実現できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的にできるかできないかにかかわらず、大胆な発想で解決方法を考えるように伝えることで、様々な考えが出るようにする。</li> </ul> <p>◎公平とは何かという見方や考え方を深めるために、発表された方法の比較を促し、公平の観点に沿った意見等を取り上げて称賛する。(価値・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どれが一番の方法かを定めることが目的ではなく、解決方法の比較を通して公平な見方や考え方を深めることが目的であることに留意する。</li> </ul>
<p>5分</p>	<p>4 振り返り</p> <p>T 今日の授業で感じたこと、気付いたこと等をワークシートにまとめてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに書いた内容を全体で発表させたり、後日まとめたものを配布したりすることで、個人の学びを全体で共有する。</li> </ul>

## IV 資料

### (1) ワークシート

( ) 年 ( ) 組 氏名 ( )

#### <資料1>

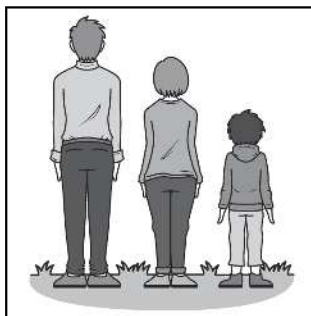
問1 4人でお金を出し合って1個のパンを買いました。このパンを「じゃんけんで勝った1人が食べる」ことにした場合、「公平」だと思いますか。

※ 「公平」: かたよらず、えこひいきのないこと (『広辞苑 第7版』(平成30年1月) 岩波書店)

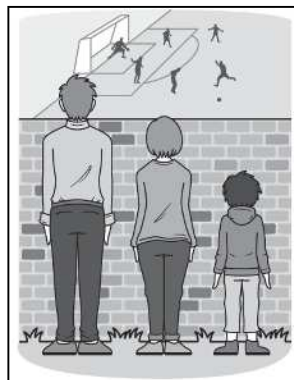
メモ

#### <資料2>

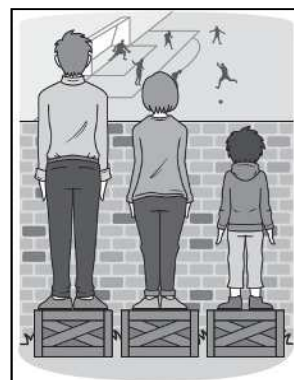
図①



図②



図③



#### 【図①の説明】

- 3人には身長差があります。

#### 【図②の説明】

- 3人でサッカー場に観戦に来ましたが、目の前には塀があり、このままでは左端の1人しか観戦できません。

#### 【図③の説明】

- 近くで観戦していた人から箱を3個もらい、みんなで平等に1個ずつ箱を分けることにしました。

問2 図③の状態になったことで課題は解決したと思いますか。

メモ

問3 課題を解決するための方法を二つ以上考え、発表用の説明シートを作りましょう。

メモ

メモ

問4 発表された解決方法の中で、どの方法が一番良いと思いましたか。

メモ

◇ 今日の授業で感じたこと、気付いたことなどを書きましょう。

---



---



---



---